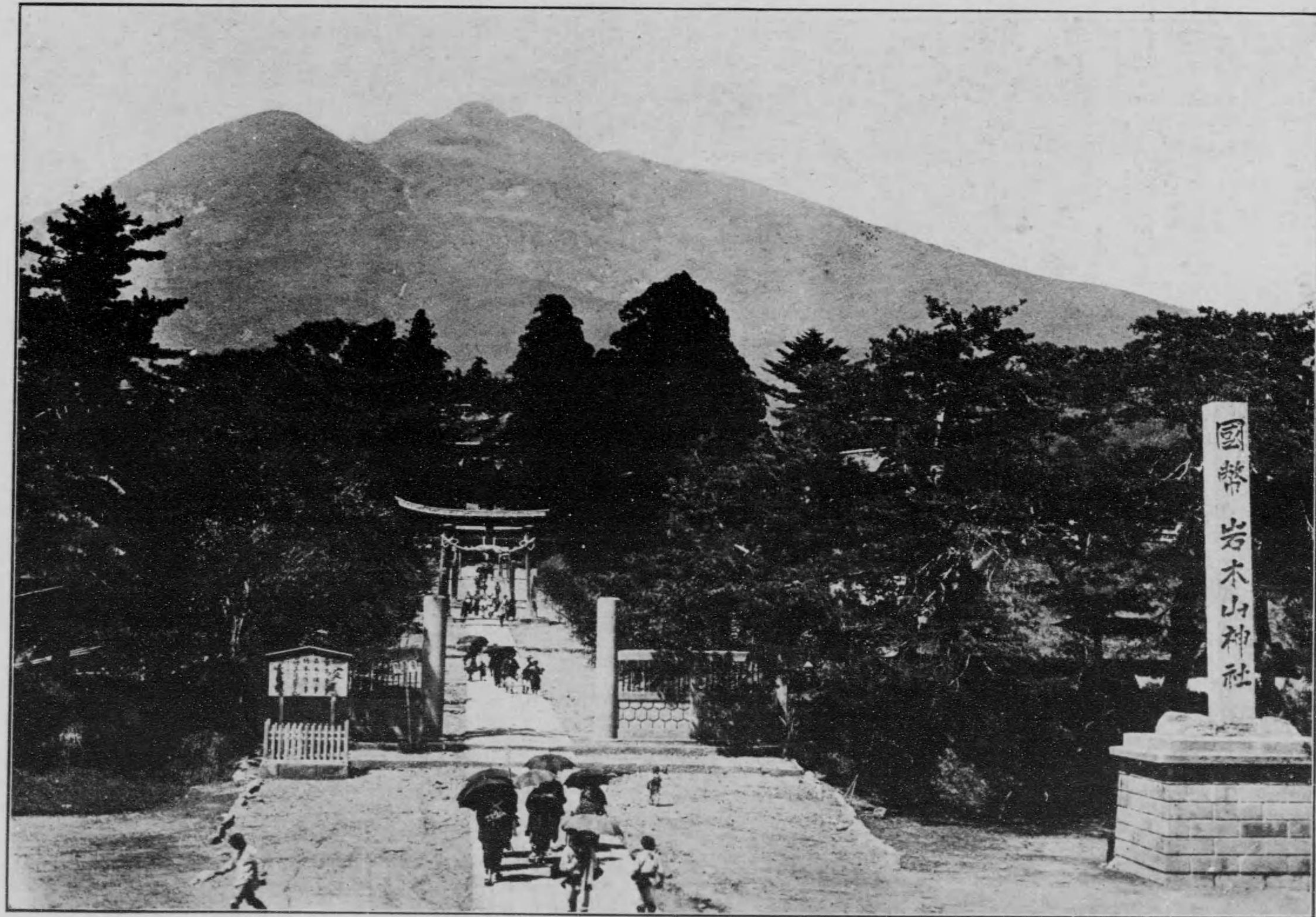


岩木山神社 (奥陸)



岩木山の南麓にあり。弘前を去る二里半、國吉の北一里半、此處より山頂に至る路程凡一里半あり。近年國幣小社に班し、祭神を宇都志國魂命、大山祇命、宇賀能賣命と爲す。本宮、拜殿、樓門並びに中門、垣牆等貞享四年の修造にして頗る壯麗、蓋し東奥に冠たる名刹なり。往昔は神佛混交にして百澤寺權現と曰ひ、拜殿に三尊佛を安置して寺領四百石を有したり。今百澤寺は分離して本社樓門の傍にあり。その本地堂に彌陀藥師觀音を安置し、山門に五百の羅漢像あり。靈驗最勝、眞言宗の名刹として世に知らる。

The Iwakiyama Shrine, Mutsu.

（前 陸） 場 馬 の 櫻 岡 榴

る名刹なり。往昔は神佛混交にして百澤寺權現と曰ひ、拜殿に三尊佛を安置して寺領四百石を有したり。今百澤寺は分離して本社樓門の傍にあり。その本地堂に彌陀藥師觀音を安置し、山門に五百の羅漢像あり。靈驗最勝、眞言宗の名刹として世に知らる。

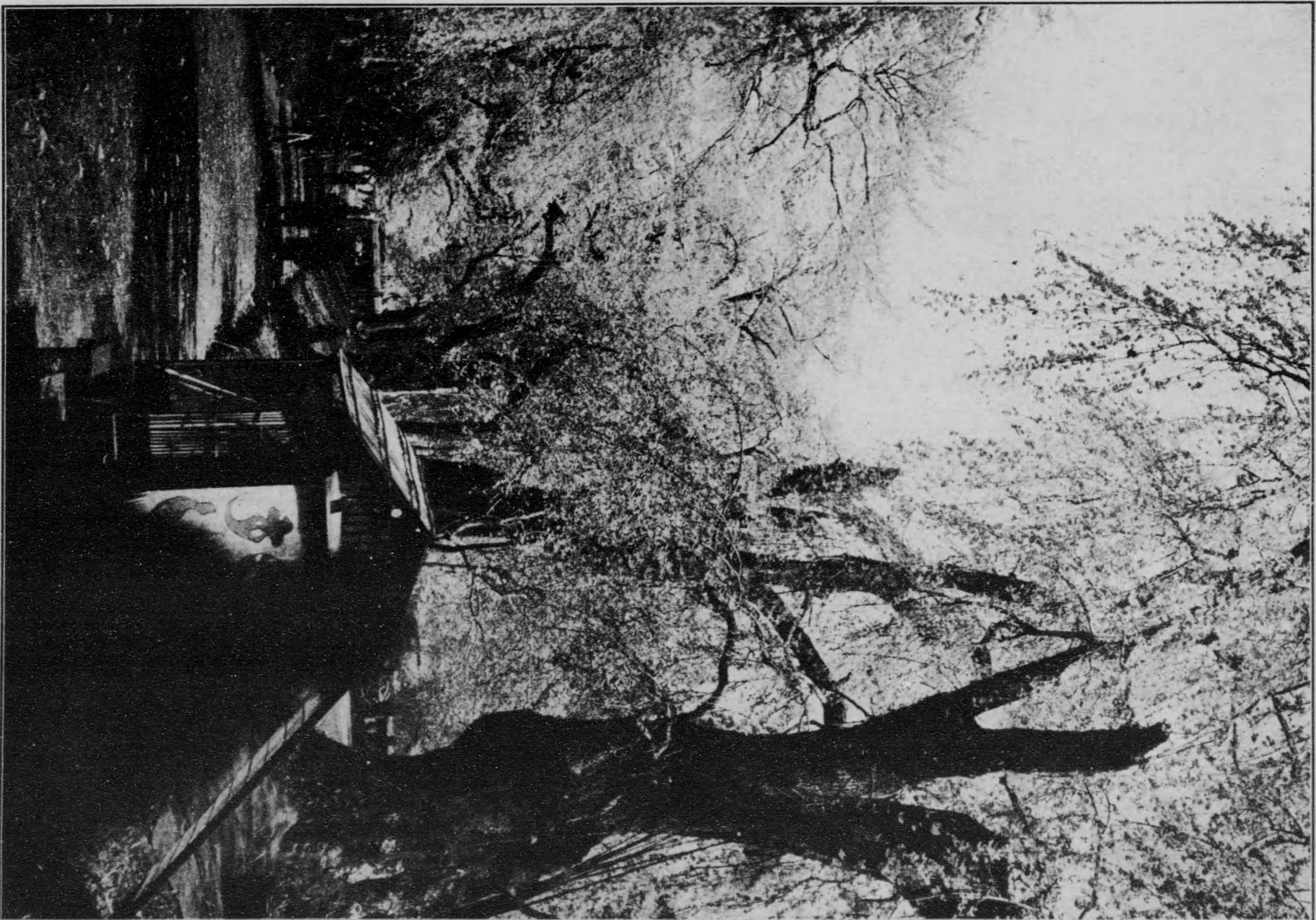
と稱せらる。今

仙臺市街の東側に  
年、時の藩守伊藤



る名刹なり。往昔は神佛混交にして百澤寺権現と曰ひ、拜殿に三尊佛を安置して寺領四百石を有したり。今百澤寺は分離して本社樓門の傍にあり。その本地堂に彌陀薬師観音を安置し、山門に五百の羅漢像あり。靈驗最勝、眞言宗の名刹として世に知らる。

(前) 陸 馬 場 の 櫻 岡 榴



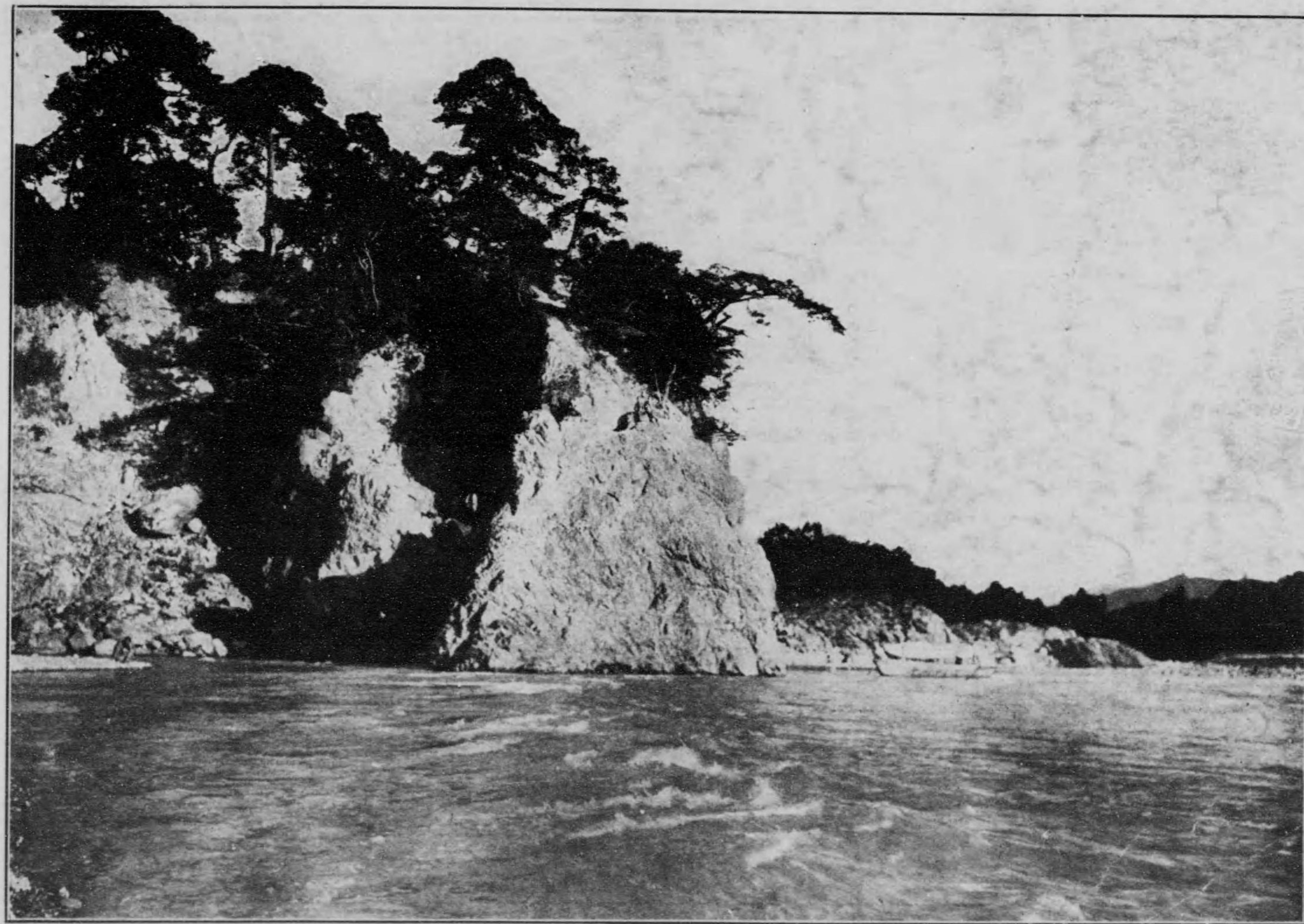
Cherry-Blossom of the Sakura-no-Baba, at Tsutsuji-ga-Oka (Hillock) Rikuzen.

と稱せらる。今その一半は兵替となれり。花候之を訪へば百年を超ゆる幾多の老樞巨樹は參差として枝を交へ、萬葉の紅雲重疊して寒るが如く、櫻櫻細柳極まりなし。

伊豫市街の東偏にして芭蕉辻より凡半里、歩兵第三旅團司令部及び釋迦堂、菅公廟等あり。往時杜鵑花多く、東に宮城野の低地を控ふる少高地なるを以て榴が岡の名あり。元祿八年、時の藩守伊達綱村始めて此地を開き釋迦堂を建て、且つその南方に一大騎射地を設け、四邊に單線繪櫻數百株、其他千餘株の樹木を植ゆ。爾來花時頗る美觀を爲すより櫻の馬場



(藏 武) 勝 奇 の 鼻 が 象 川 荒



荒川は武蔵北方の一水系にして秩父の山中に發し、大里郡に入りて中游と爲り、足立郡と比企、入間、豊島各郡との間を流れ、入間川を併せて下游と爲り、末は東京府内に入りて隅田川と稱せらる。秩父の遠源より其入海の末に至る、流域凡五十五里と算す。沿岸ハ多し。その河道は中游以下に於て古今の變遷あり。往昔は熊谷の北を流れ、大里、幡羅の郡界を劃して直に足立埼玉の間に入り

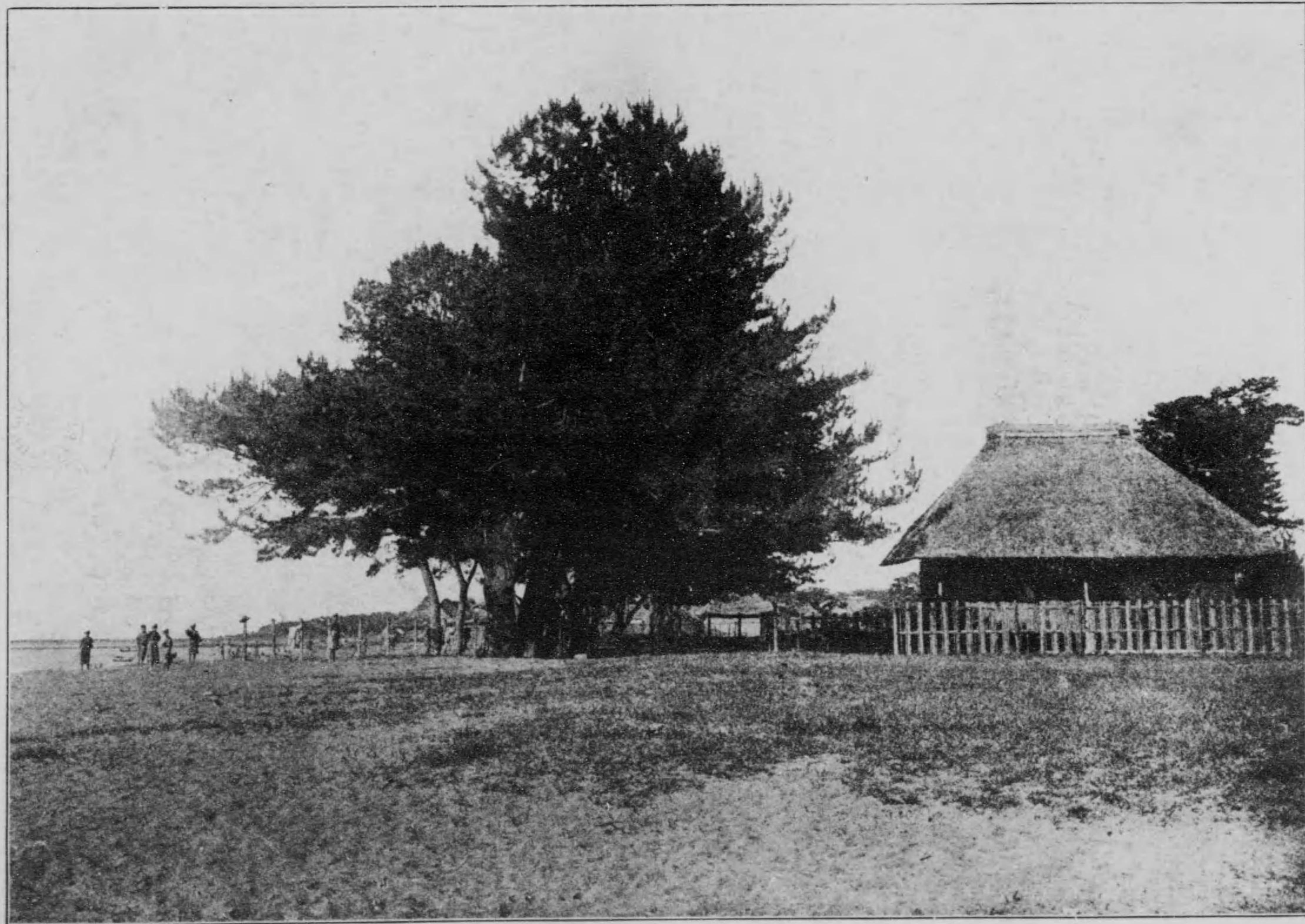
しも、今は南方に轉じて熊谷、村岡の間を流る。その年代詳らずと雖も、鎌倉府治の時と思はる。圖は上流、秩父山中象が鼻の奇勝と爲す。

Zō-ga-hana at Upper Stream of the Ara River, Musashi.

神宮寺浦とも言ふ。大分を距る約十町。四望快調、北は波靜なる別府灣に臨み、沿岸平夷にして風光に富む。蓋し豊州有数の勝地なり。春日神社あり。國史云、勢家村春日祠、貞觀二年、豊後國司藤原朝臣和洲より勸請す。建久年中、大友能直の府に就くや之を修



春 日 浦 (豊 後)



Kasuga Sea-Coast, Bungo.

補す。神宮寺は仁治三年、大友親秀、賢如律師に令してその廢絶を再興せしむ。降りて天正年中兵火に罹りしを、慶長十二年竹中重隆重修して今日に及ぶ。神宮寺側、山蔭中納言の墳墓として傳ふる叢祠あり。又この浦は往時海船多く相會せし所なりと言ふ。

神宮寺浦とも言ふ。大分を距る約十町。四望快調、北は波靜なる別府灣に臨み、沿岸平夷にして風光に富む。蓋し豊州有数の勝地なり。春日神社あり。國史云、勢家村春日祠、貞觀二年、豊後國司藤原朝臣和洲より勸請す。建久年中、大友能直の府に就くや之を修

しも、今は南方に轉じて熊谷、村岡の間を流る。その年代詳らずと雖も、鎌倉府治の時と思はる。圖は上流、秩父山中象か鼻の奇勝と爲す。



櫻山公園(肥前)



肥前武雄町にあり。武雄は人口八千、杵島一郡の首邑にして鐵道車驛なり。佐賀の西十四哩。温泉あり。蓬萊山下に湧出す。柄崎湯と稱す。附近一帯遊園地と爲し櫻山公園と呼ぶ。温泉は炭酸泉にして温度百八十度、無色透明なれど微に硫化水素臭を放ち鹹味を帯ぶ。泉源は岩石の間にあり。之を地に引き算を通じ、七區の槽所に分派す。浴場の構造甚だ佳にして旅舎四十餘戸あり。その繁華山驛に

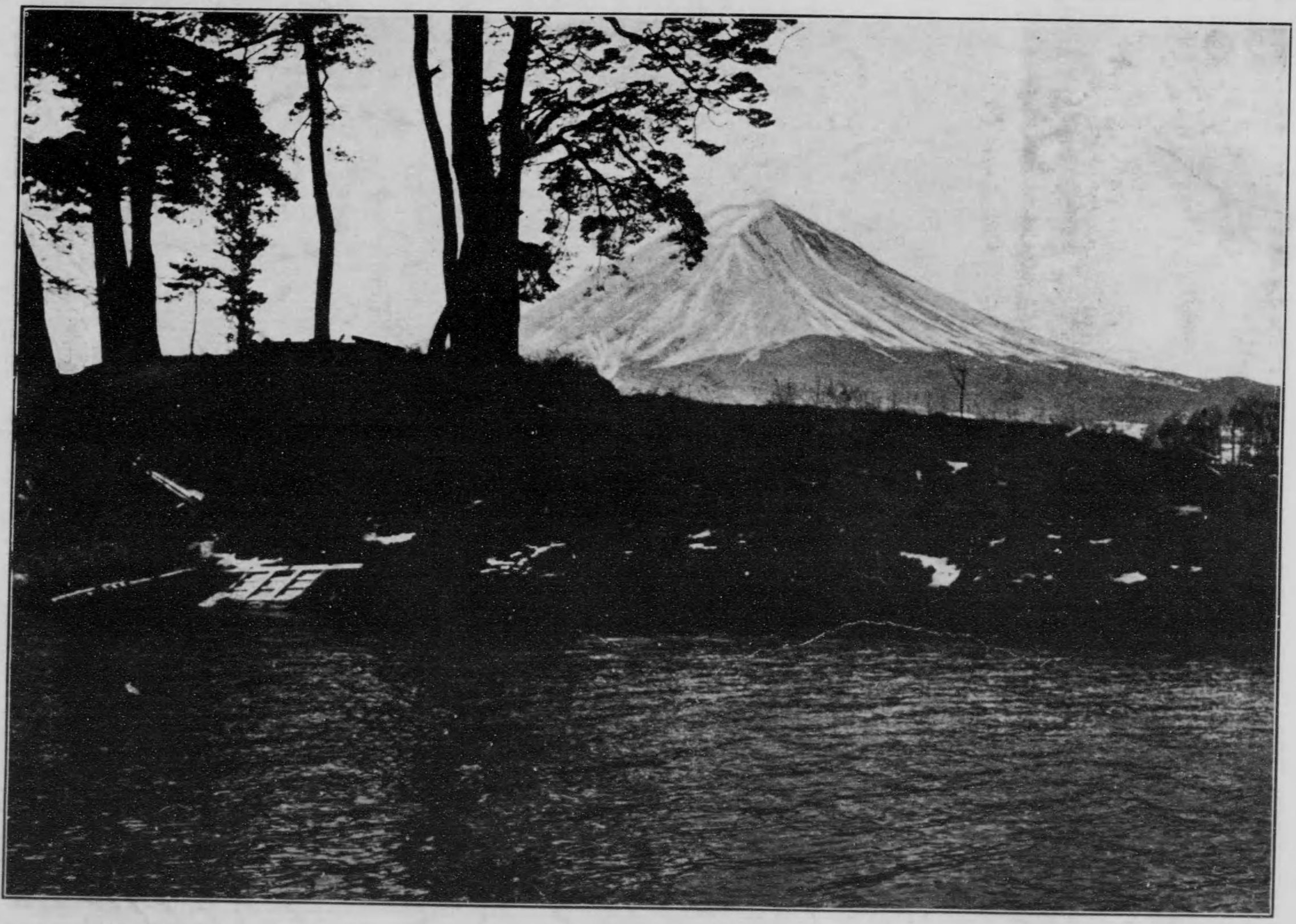
似ず、遊客頗る多し。蓬萊山は危巖兀立する事凡二百尺、浴餘の眺望亦賞すべし。杵島郡西、有温泉出之、巖岸峻極、人跡罕及也」と古風土記にある即之なり。

(版藏店書宅大 雄武) Sakurayama Park, Hizen.

富士の北、裾野の大湖なり。風光絶佳、湖上芙蓉の英姿を浮べ富士八湖の一として知らる。河口湖は昔決潰する所あり、御坂山の溪澗之に注ぎ桂川の水源をなせし。貞觀六年富士大に噴火し、該河を埋め水路を絶ちたるを以て、遂に今日の一大湖と成れり。面積



河 口 湖 の 富 士 ( 斐 甲 )



Mt. Fuji From Kawaguchi Lake, Kai.

は約二千町歩あり。その鶴島附近は淺く、東西岸稍深きも概して平坦なり。水深四十二三尺内外にして五十尺を超ゆる處は殆どなく、湖底宛然鍋の如し。近年排水墾田の計畫あり。釋萬庵の詩に「層巒八葉鎖丹霞、鸞馭飛回丘頂餘。萬古青天懸片雪、雲中倒影玉蓮花」

富士の北、裾野の大湖なり。風光絶佳、湖上芙蓉の英姿を浮べ富士八湖の一として知らる。河口湖は昔決潰する所あり、御坂山の溪澗之に注ぎ桂川の水源をなせしも、貞觀六年富士大に噴火し、該河を埋め水路を絶ちたるを以て、遂に今日の一大湖と成れり。面積

似ず、遊客頗る多し。蓬萊山は危巖兀立する事凡二百尺、浴餘の眺望亦賞すべし。柞島郡西、有温泉出之、巖岸峻極、人跡罕及也」と古風土記にある即之なり。



二宮海岸(模相)

國府津を距る東北二里。海道の名驛小田原と相接する江山佳麗の地なり。東海道名所記に鹽見又は古屋の里と稱せられし地にして、近世二宮本郷とも曰ふ。川匂大明神あり、所謂二ノ宮にして地名之に因る。川匂神社は延喜式、餘綾郡の官社にして、東鑑に二宮川



The Ninomiya Shore, Sagami.

匂大明神に神馬奉納の事屢々見ゆ。因に小田原は往時海道の要衝なりしが、近世汽車箱根の舊道に依らざるより、又當時の繁盛なしと雖も、丘阜を負ひ海に對するの勝地にして、且つ國府津驛、箱根湯本間電力軌道の中間に位するを以て、猶一繁華地たるを失はず。

(前越) 部一の坊尋東

相併びて奇観す

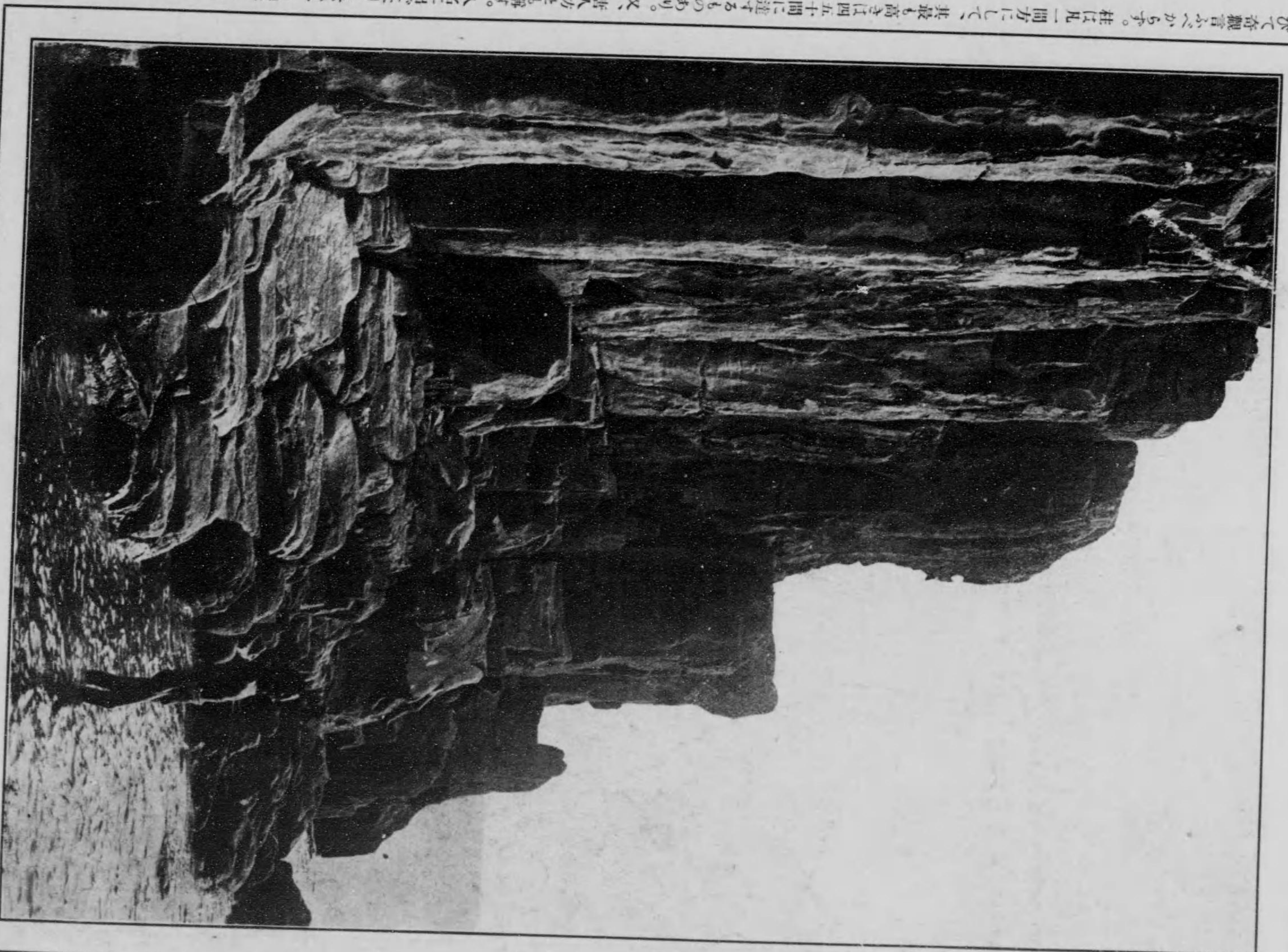
越前三國港の北  
り。卯橋は二町四



句大明神に神馬奉納の事屢々見ゆ。因に小田原は往時海道の要衝なりしが、近世汽車箱根の舊道に依らざるより、又當時の繁盛なしと雖も、丘阜を負ひ海に對するの勝地にして、且つ國府津驛、箱根湯本間電力軌道の中間に位するを以て、猶一繁華地たるを失はず。



(前 越) 部 一 の 坊 尋 東



相俟びて奇觀言ふべからず。柱は凡一両方にして、其最も高きは四五十間に達するものあり。又、唐人坊とも稱す。人名に出でたりと云ひ、口碑存するも詳かならず。

越前三國港の北一里にあたり、安島米島の間に乗出する岬の磯なり。北は雄島と相對し、豪偉雄壯、日本海を象徴する絶景にして旅客の嘆美措かざる勝地なるは過ぐ人の知る所なり。岬端は二町四方に擴がりて千疊敷の名あり。斷崖絶壁の下、海水湛へて紺碧の深潭を爲す。此地の崖壁は悉く火山岩にして、その露出の狀態は列る崖方形の標柱狀を呈し、直立

One Part of the, Tōjinbo, Echizen.



宇治三橋之間(都京)

近江國琵琶湖の水、勢田に決潰して南流又西流し宇治郡笠取村に至り、更に西南に馳る事二里に及び忽然西に折れ、一里にして宇治橋下に達す。宇治川と言ふ。水色玲瓏河底の石を數へ得べし。宇治橋は孝德天皇の御宇大化二年道昭和尚の造る所に係る。長さ實に



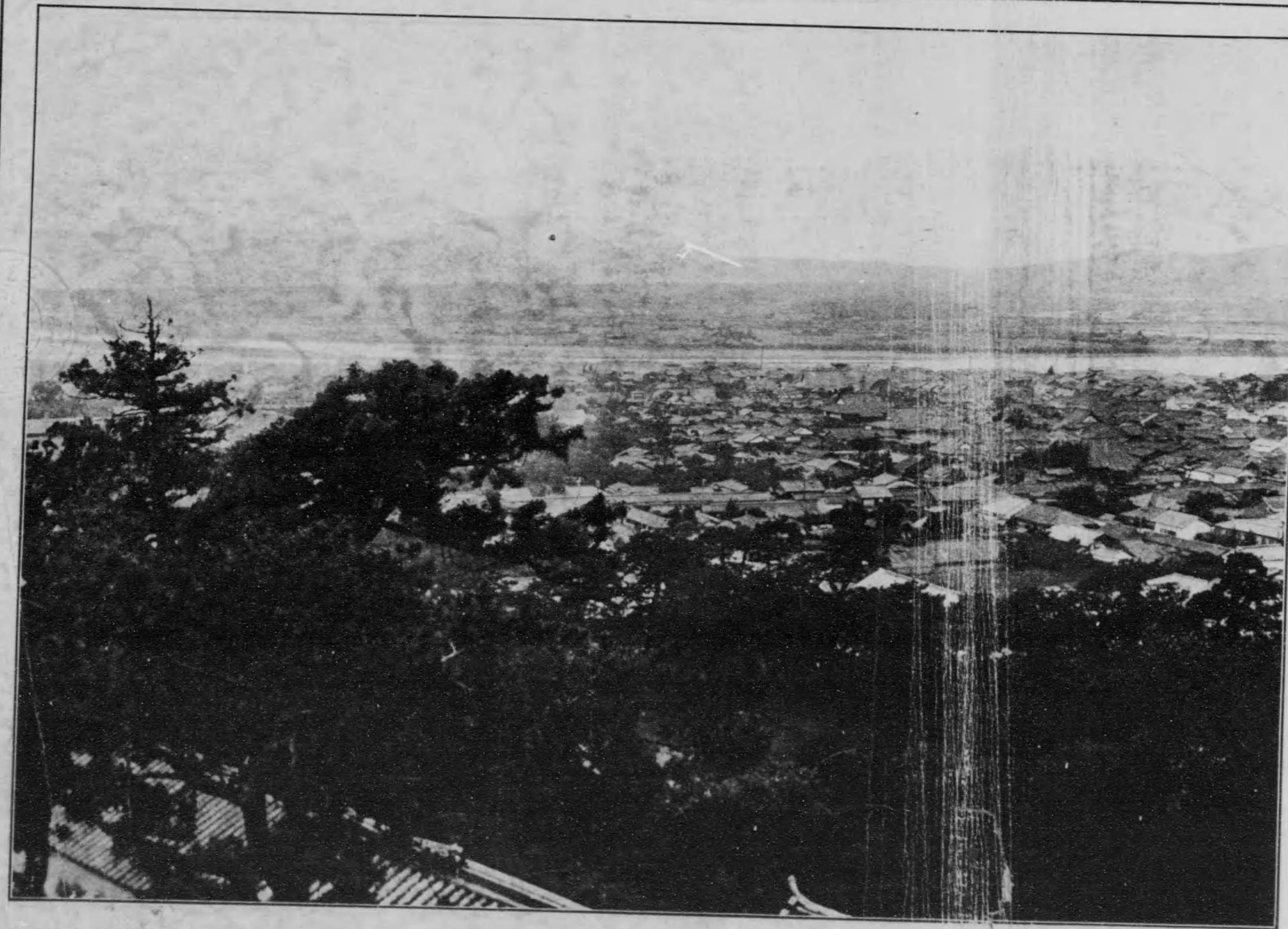
八十三間、橋の中央南の欄干に圓の如く廣き一間許張出し三之間と言へり、豊太閤伏見在城の時、茶の湯の用水を此より汲ましめしと言ふ。この橋上に立たば山容水態繪の如く迫り、行人爲に三顧を禁ずる能はず。又、此河は古來壺を以て名高し。

和歌山市は人口七萬、大阪を距る十七里。紀の川の南岸に倚り、雜賀川に跨る紀州第一の都會たり。徳川氏の時親藩を此に封じ以て南海の鎮と爲す。録五十五萬五千石。藩祖常陸介頼宣は即紀州大納言南龍公にして、尙武崇文、稀世の英主たり。爾來士庶大に集り、今猶縣廳兵營諸官衙皆此に在りて商工業繁盛を極む。鐵道は北泉州尾崎より來るもの、東和州五條より來るもの、共に此に相會す。

The Saroma of Uji Bridge, Kyōto.



和歌山街市(紀伊)



(贈寄氏島松 山歌和) Wakayama Street, Kii.

和歌山の名は吹上築城の後、和歌の浦に對して起れるものならん。圖は和歌山城天守閣より其市街及び紀の川を隔て、遠く葛城山脈を望む光景なり。

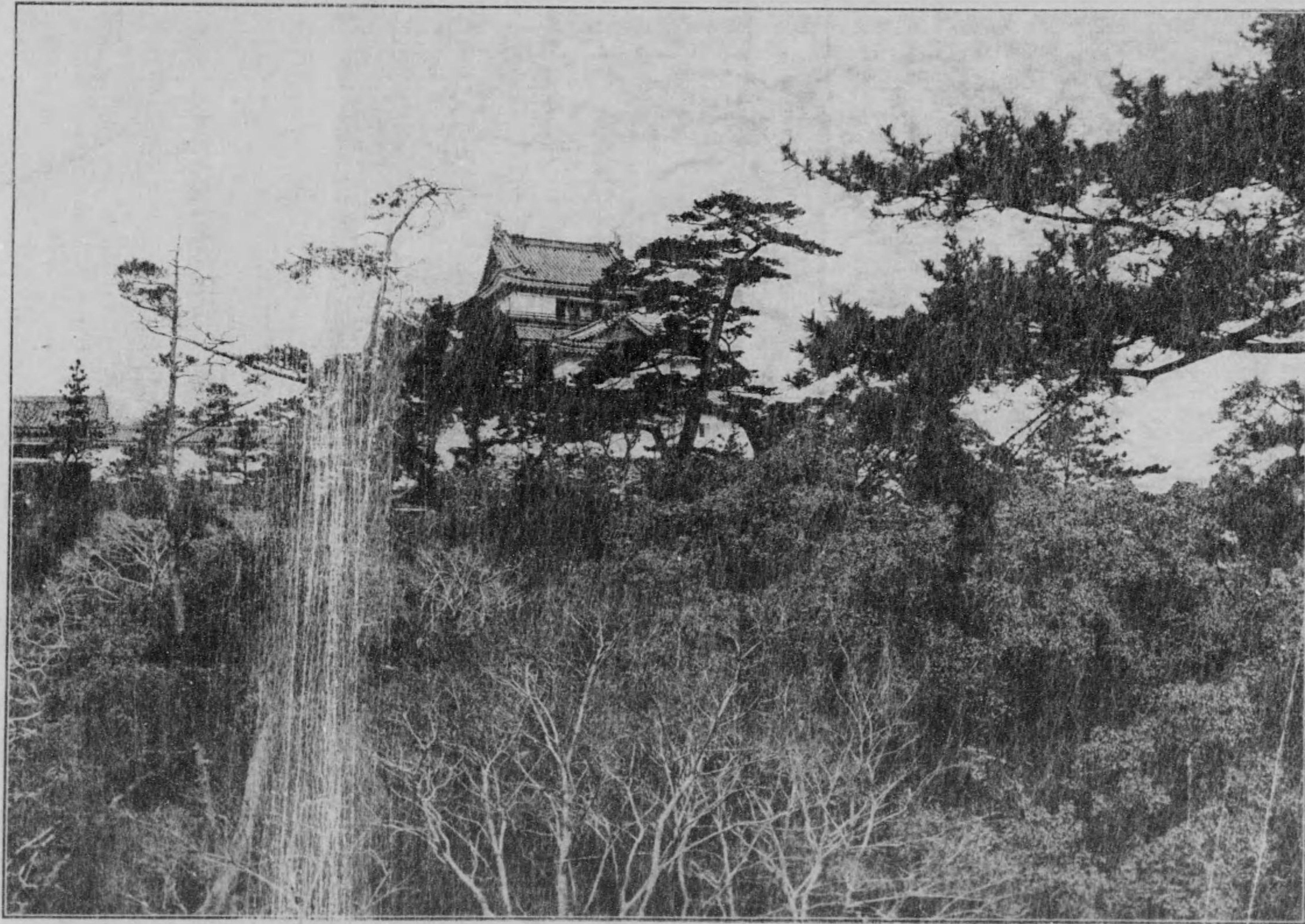
和歌山市は人口七萬、大阪を距る十七里。紀の川の南岸に倚り、雑賀川に跨る紀州第一の都會たり。徳川氏の時親藩を此に封じ以て南海の鎮と爲す。録五十五萬五千石。藩祖常陸介頼宣は即紀州大納言南龍公にして、尙武崇文、稀世の英主たり。爾來士庶大に集り、今猶縣廳兵營諸官衙皆此に在りて商工業繁盛を極む。鐵道は北泉州尾崎より來るもの、東和州五條より來るもの、共に此に相會す。

八十三間、橋の中央南の欄干に圖の如く磨き一間許張出し三之間と言へり、豊太閤伏見在城の時、茶の湯の用水を此より汲ましめしと言ふ。この橋上に立たば山容水態繪の如く迫り、行人爲に三顧を禁ずる能はず。又、此河は古來壺を以て名高し。



和歌山歌山城(紀伊)

和歌山市の中央特起の岡阜に依りて築き、その東に雑賀川の水を引き壘壕重疊す。今兵營に充てらるゝは其内廓なり。天正十三年、豊臣秀吉本州を平定し、此地を大和納言秀長に加封す。秀長乃ち其將桑山修理亮重晴をして吹上の岡に築かしめ、以て地方を守備せしめたり。文祿三年秀長の嗣秀俊没す。慶長五年東西の軍起るや重晴諸孫と共に和歌山を守りて東軍に應ず。戦後、重晴和州布施



The Wakayama Castle, Kii.

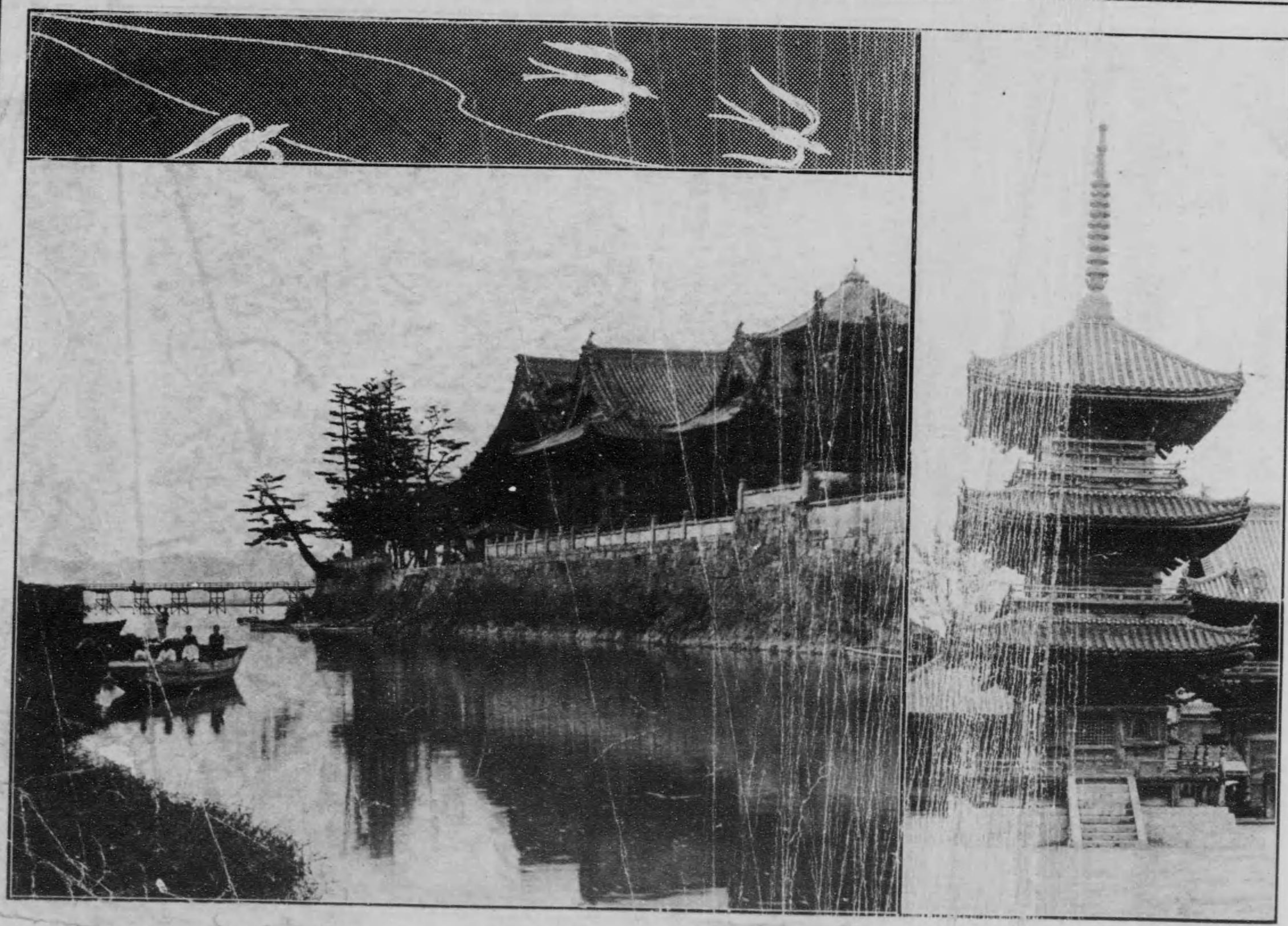
に移封せられ、淺野紀伊守幸長之に代りて入部するや、大に城市を築き面目一新す。後二十餘年を経て淺野氏安藝に移り、徳川頼宣入部し以て維新に至る。

備前國東大川の西岸、兒島水道より北三海里にあり。金陵山と號し眞言宗なり。寶龜八年、僧安隆兒島郡槌の瀬戸に於て龍神より犀角を授得し、之を空中に投じたるに今の寺地に落下す。安隆因りて金岡莊松中島にありし堂宇を此處に移建し、犀戴寺と名づけし口碑は遍く世に知らるゝ所なり。永正年中僧直阿中興し、天文元年火災の厄に逢ひしも同三年修造成る。寺中觀音尊を安置す。岡の觀



西大寺觀音院(前備)

音院是なり。山陽文稿の一節に「西大寺、因寺成邑、舟船所輻輳、在前備爲一都聚」とあるが如く寺名を村名に冠す。毎年正月の修法大會あり。

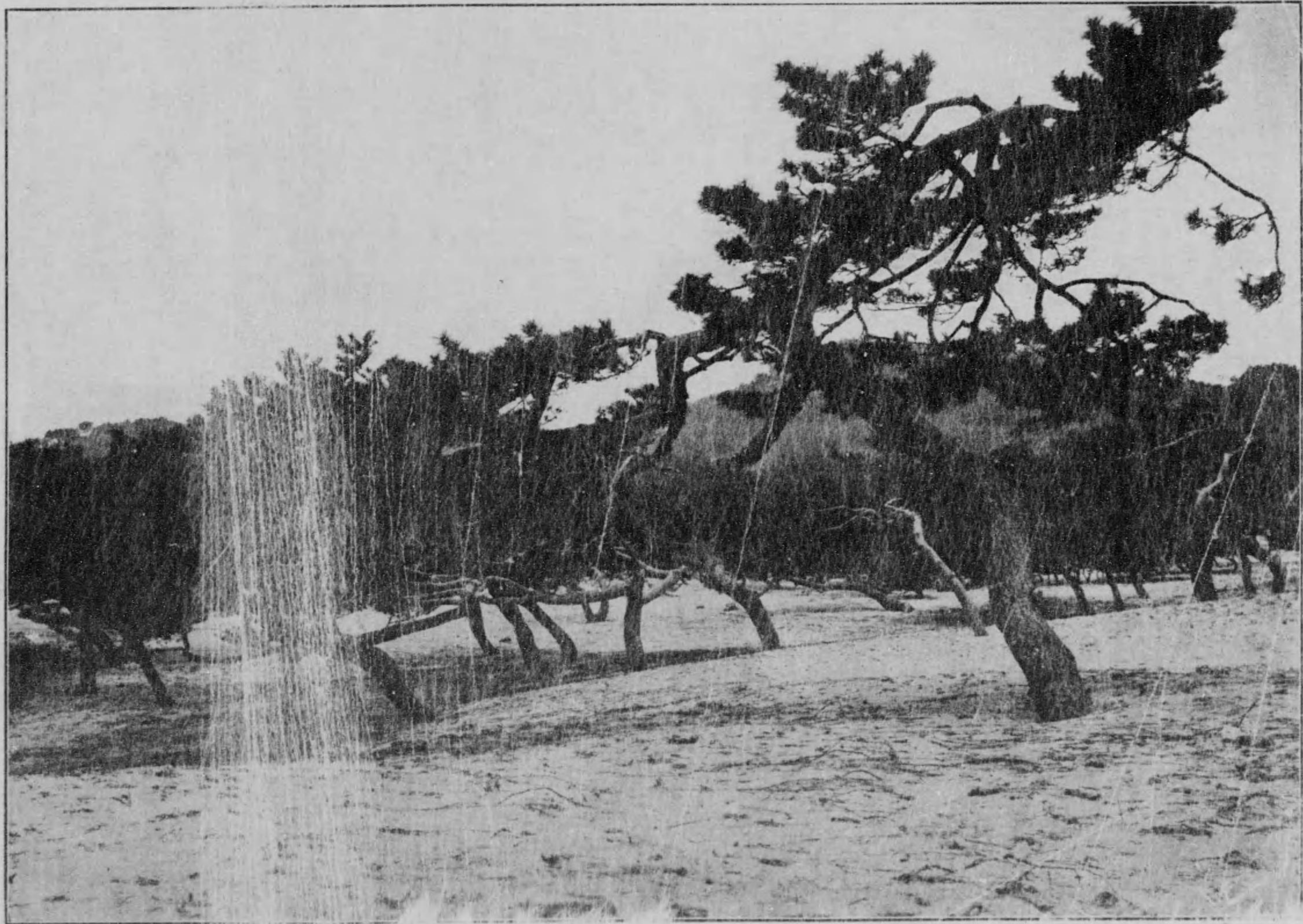


備前國東大川の西岸、兒島水道より北三海里にあり。金陵山と號し眞言宗なり。寶龜八年、僧安隆兒島郡穂の瀬戸に於て龍神より犀角を授得し、之を空中に投じたるに今の寺地に落下す。安隆因りて金岡莊松中島にありし堂宇を此處に移建し、犀角寺と名づけし口碑は遍く世に知らるゝ所なり。永正年中僧直阿中興し、天文元年火災の厄に逢ひしも同三年修造成る。寺中觀音尊を安置す。圖の觀

に移封せられ、淺野紀伊守家長之に代りて入部するや、大に城市を築き而日一新す。後二十餘年を経て淺野氏安藝に移り、徳川頼宣入部し以て維新に至る。



今津の松原(筑前)



九州の西北端にして糸島郡に属す。今津村と曰ひ福岡を距る三里半。南に天岡、今宿の二村を控えて海中に斗出し、西北して松多く、毘沙門風東に聳えて風光秀麗を極む。遠く平治の昔より唐船多く此處に着したるを以て、猶唐船灣の地名を存八年九月、蒙古の使者趙良弼此處に着して牒狀を致す。弘安四年七月二十七日、賊船來寇して此地を侵す。此邊一帯寛政の

て、今猶所々に石壘の存するあり。北方に登志神社あり。當時戦功ありし詮磨別當次郎時秀を祀り、之に詣する者をして傳た往時を回想せしむ。



て、今猶所々に石炭の存するあり。北方に登志神社あり。當時戦功ありし説磨別當次郎時秀を祀り、之に詣する者をして藤原時を  
回想せしむ。

大正五年九月十三日印刷納本 同年九月十八日發行



改訂

台本 眞遊覽奥附  
定價 金參圓五十錢

編輯兼  
發行者

東京市神田區仲町壹丁目十六番地

黒田久吉

印刷者

東京市神田區柳町二番地

黒田榮

印刷所

東京市神田區仲町壹丁目十六番地

東京圖按印刷社

發行所

東京市神田區仲町萬世橋通

寫眞遊覽畫報社

電話下谷二七八九番  
振替東京五七九三番



終